

コロナ禍における認知症に係る研修事業の 取組みについてのご紹介

全日本病院協会では、従来実施していた各種研修事業について、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、Zoomウェビナーを利用したオンライン研修として開催しています。

その中で認知症関連の研修事業の実施状況について以下紹介します。

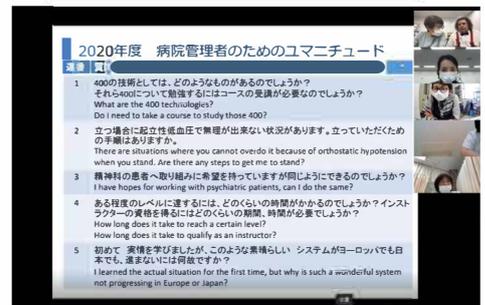
1. 「病院看護師のための認知症対応力向上研修会」

- 身体疾患のために入院した認知症患者に対する病棟における対応力とケアの質の向上を図るための取組みや多職種チームによる介入を評価する項目である「認知症ケア加算」、及び、老健局の「病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修」のプログラムに対応した2日間の研修。
これまでに累計で4,000名以上が受講、診療報酬で評価されていることもあり、開催ニーズが高い。
- 2020年度は、Zoomウェビナーを用いたオンライン研修として実施。
演習が必須であるが、ウェビナーの投票機能及び手上げ機能を利用することで、対面型研修と同様の演習環境を維持した。
- 研修参加者への対面型研修とオンライン研修の比較に関するアンケート結果では、「オンライン研修の方が良い」が26%、「変わらない」が32%、「やや劣るが許容範囲内」が31%、という評価であった。
また、今後の研修会の開催方法については、「できる限り対面式に戻して欲しい」が24%、「オンラインと対面式を交互に開催」が26%、「オンラインを継続」が48%、という結果であった。

(公社) 全日本病院協会

2. 「病院職員のための認知症研修会（ユマニチュード入門研修）」

- 認知症の方へのケアメソッドである「ユマニチュード」を学ぶ研修であり、開催ニーズが高い研修であるが、技法を学ぶ際に参加者同士の接触が必要となることから、2020年度は、「病院管理者のためのユマニチュード（認知症対応メソッド）」として、管理者（院長、看護部長、ケア部門長など）を対象にした研修会に変更し、Zoomウェビナーを用いたオンライン研修にて実施。
同研修では、ユマニチュードの考案者であるイヴ・ジネスト先生、東京医療センターの本田美和子先生が講演された。



(実際の研修画面)

3. 総合医育成事業（日本プライマリ・ケア連合学会と共同で実施）

- 概ね6年以上の経験を有する医師を対象とし、①個々の医師がすでに有する専門性や経験を生かしながら診療の幅を広げること、②「総合診療専門医」のコンピテンシーを理解し、将来的に専門医と職場における協働を図ること、③地域包括ケアにおける複雑な課題への対応能力を高め、住民から信頼される医師を育成すること、④総合的かつ俯瞰的に病院機能の改善を図ることができ、積極的に病院経営に関与できる人材を育成すること、⑤病院内外の医師、関連施設、関係多職種との連携をスムーズに行うことのできる医師を育成することを目的とした約2年間（全34単位中20単位以上受講が修了要件）の研修。「認知症」について、診療実践コースの中で受講する。
2021年度は、オンライン研修を中心とし、一部を対面形式で開催するハイブリッド形式で実施中。

(公社) 全日本病院協会